

2017年3月
No.17-041a(全)※1

「ABC分類」検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、標記項目につきましては、本年4月より認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構から出された「新しいABC分類 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)2016年改訂版運用の手引き」に基づき、検査内容を変更させていただきますので、取り急ぎご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

■対象項目

- [セット 0019] ABC分類

■変更期日

- 2017年3月31日(金)受付日分より

以上

「胃がんリスク層別化検査(ABC分類)」改訂について

ABC分類とは血液中のヘリコバクター・ピロリ抗体値とペプシノゲン値を調べることにより、胃がんリスク評価を行うもので、住民検診および職域検診、人間ドック等での使用が広がってきています。

今般、2016年12月1日付で「胃がんリスク層別化検査運用研究会」から胃の健康度を調べる「ABC分類」検査のうち、ヘリコバクター・ピロリ抗体の検査試薬と判定基準、およびピロリ菌除菌者の取り扱いについて新たな運用基準が示されました。弊社と致しましても斯かる状況を踏まえ、本年3月31日より検査内容を変更させていただきます。

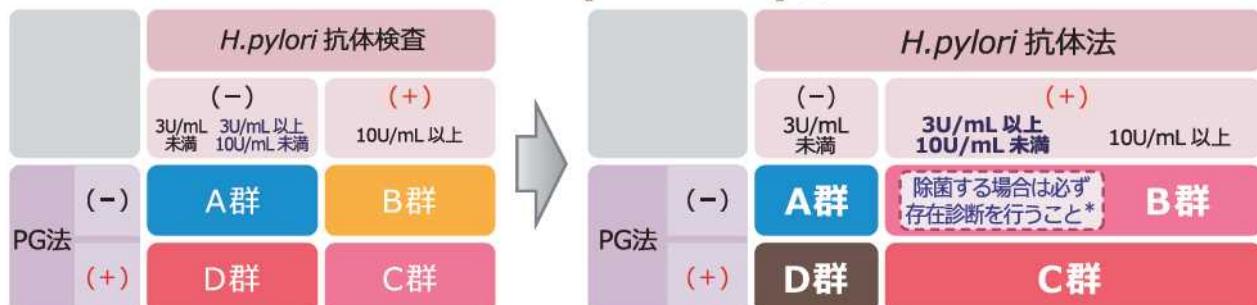
■変更内容

変更内容	新	旧
検査項目名	胃がんリスク層別化検査(ABC分類) ^{*1}	ABC分類
検査方法	ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC《EIA》 ^{*2} [栄研化学] ※ペプシノゲンの検査試薬は変更なし	ヘリコバクター・ピロリ抗体《LA》 [栄研化学]
判定基準	判定基準(陰性):3U/mL未満	判定基準(陰性):10U/mL未満
所要日数	3~7日	3~6日
専用報告書	「胃がんリスク層別化検査」報告書 (詳細は4頁をご参照下さい)	「ABC分類」報告書
備考	*1:ピロリ菌の除菌治療を受けた方の運用を開始致します。除菌判定の結果に関わらず、各群の判定は行わず、E群としてご報告致します。詳細は、次頁をご参照下さい。 *2:ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC《EIA》は、「胃がんリスク層別化検査」専用検査です。従来のLA法でのご依頼はお受け致しかねます。 測定試薬は、Eプレート‘栄研’H.ピロリ抗体Ⅱです。	
検査場所	LSIメディエンス(→1)	

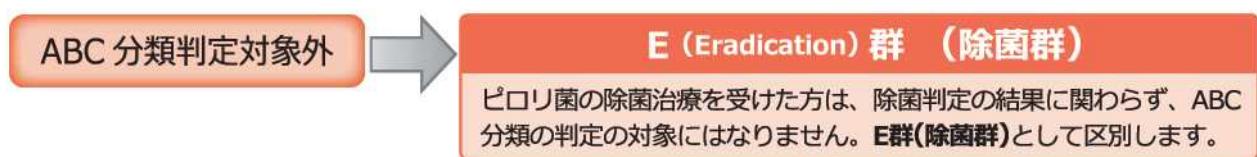
※その他の検査要項に変更はございません。

ABCDの新判定基準(新旧比較)

「胃がんリスク層別化検査(ABC分類)」2016年度改訂版



*除菌する場合は、必ず他のH.pylori検査を実施し、ピロリ菌の存在診断を行うこと



(「胃がんリスク層別化検査の運用について」を改変しております)

各群の受診者へのコメント(新旧比較)

【新・胃の健康度】

報告区分	新コメント	旧コメント
分類	A 群 健康な胃で、胃の病気になる危険性は低いですが、内視鏡検査をお勧めします。	健康な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。
	B 群 少し弱った胃で、潰瘍等に注意下さい。内視鏡検査とピロリ除菌をお勧めします。	少し弱った胃です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意が必要です。
	C 群 萎縮の進んだ弱った胃粘膜です。定期的な内視鏡検査とピロリ除菌をお勧めします。	弱った胃の可能性があります。内視鏡による定期的検査をお勧めします。
	D 群 萎縮が非常に進んだ胃粘膜です。かならず内視鏡検査などの診断を受けましょう。	弱った胃の可能性が高いと思われます。内視鏡による定期的検査をお勧めします。
	E 群 ピロリ菌除菌治療を受けた方は、E群として定期的に内視鏡検査を受けましょう。	未設定

※弊社報告書には、検査結果に伴い上記の各コメントでご報告致します。

各群の受診者への詳細なコメントは、「胃がんリスク層別化検査報告書」の裏面をご参照下さい。

ご依頼方法

「胃がんリスク層別化検査」はセット検査として運用させていただきます。ご依頼の際は、依頼書に
[セットコード 0019] ABC 分類 とご記入下さい。

セット名称	セット項目
[セットコード 0019] ABC 分類	[3882] ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC<EIA>
	[4973] ペプシノゲン:LA
	[4978] 胃がんリスク層別化検査(D 分類)

ピロリ菌の除菌治療後のご依頼方法

ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、胃がんリスク層別化検査判定対象外となるため、ヘリコバクター・ピロリ抗体とペプシノゲンの測定値をご報告し、A、B、C、D判定は行わず、E(Eradication)群としてご報告致します。

ご依頼の際は、依頼書に[セットコード 0110] ABC 分類 E とご記入下さい。

セット名称	セット項目
[セットコード 0110] ABC 分類 E	[3882] ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC<EIA>
	[4973] ペプシノゲン:LA
	[6205] 胃がんリスク検査/E 群(D 分類)

「胃がんリスク層別化検査」報告書(見本)

「ABC 分類」検査報告書を下図の通り改版いたします。また、報告書の名称を「胃がんリスク層別化検査」に変更致します。

【表面】

胃がんリスク層別化検査												
受診者名 様		年齢	性別									
姓 名	ガルテ	誕生日 年 月 日										
担当医	島崎	受付日 年 月 日										
		検査日 年 月 日										
A B C D 分類判定結果												
*** あなたの胃の状態 ***												
A群 健康な胃	B群 少しほついた胃	C群 ほついた胃	D群 かなりほついた胃									
コメント												
ABCD分類判定対象外 E群 (障害群) ピロリ菌の治療歴を受けた方は、検査結果の結果に従わらず、E群(障害群)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。												
※報告書の裏面をご参照ください。												
ペプシノゲン/ヘリコバクター・ピロリの判定結果												
検査項目	判定	検査項目	判定									
ペプシノゲン		ヘリコバクター・ピロリ抗体(EIA)										
ペプシノゲン 検査結果	判定基準 (陽性)		U/mL									
ペプシノゲン検査項目	指定値	判定領域										
ペプシノゲン I	ng/mL	0	10	20	40	70	100					
ペプシノゲン II	ng/mL	0	10	10	30	40	20					
ペプシノゲン I / ペプシノゲン II 比		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
判定基準 (陽性)	ペプシノゲン I : 70ng/mL以下かつペプシノゲン I / II 比 : 3.0以下											
医療機関												
検査実施施設												
検査責任者												
株式会社LSIメディエンス インフォメーション 医療機関用: (03) 5994-2111 1/1												

【裏面】

あなたの『胃の健康度』は 血液でチェックすることができます！			
ペプシノゲン検査	ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	
陽性	陰性	陰性 (−) 陽性 (+)	
ペプシノゲン	検査	A タイプ B タイプ	D タイプ C タイプ
胃の検査で多く実施されているのはバリウムを飲んでから行うX線撮影で、フィルムに写った胃壁の凹凸から胃の状態を見る検査です。この方法とは別に、2種類の検査を組合わせることによって「胃の健康度」を調べることができます。			
(注)一般診療において、ピロリ菌検査はピロリ菌抗体検査よりも検査料金が安いですが、胃がんリスク検査(ABC分類)では、ピロリ菌の感染と胃がんの発癌リスクがあることが認められます。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。			
A タイプ		B タイプ	
お若くね緑色の胃粘膜で、胃の表面になる癌陥れは低いことが多いです。胃がんになりやすいタイプと考えられます。 定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。		少し固い胃粘膜です。胃がいよう・十二指腸かいようなどに注意しましょう。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。	
C タイプ		D タイプ	
緑色の進んだ固い胃粘膜と見えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。 定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。		緑色が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてご相談ください。	
E タイプ		E群 は検査により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。	
<small>監修:一般財団法人厚生労働省健康センターナン・上和志</small>			

*縮小して掲載しています。

■参考資料

胃がんリスク評価 ABC 分類の正しい運用のために(第 89 回日本産業衛生学会／ランチョンセミナーより)